

矢切の渡しに行、たこと

石鍋 遙香

わたしは、矢切の渡しに行きました。わたしの家は外に行くことが少ないので川に行、たことがあります。だから今日矢切の渡しに行、たのです。まず電車に乗り電有駅から松戸駅まで行きました。そこから矢切の渡しに行きのバスに乗りました。バスの中で景色を見、いたらす、きまぐマンションなどの高い建物があ、たのに、急に田舎が増えて田舎の町なみに変わりました。それからバスで15分位行くと終点の矢切の渡しに着きました。矢切の渡しは、江戸川をはさんで東京と千葉を行ききする船です。船着場までは木がたくさんあ、てそこだけ森のようでした。ど、んと木がい、く、と船着場に着きました。木材の中はセミがうるさいほどでした。ち、とび、くりとしました。男の人が一人立、ていてその人が船頭さんでした。船頭さんに案内され、昔ながらの木の船に乗りました。木の渡し舟



は都内ゆいづのものです。わたしは木の渡し
舟に初めて乗るのでもまん張りました。
舟に乗り、たのは私達三人と他の親子の二人の
全部で五人でした。乗った時は少しゆれま
たが、こわくありませんでした。その舟が動
き出すと初め舟は真すぐに進み、と中から舟
が横に少しずつずれこいくような動きをし始
めたのでおどろきました。今までにこんな舟
は見たことかほか、たのこのようないき
が良くてとても良か、たびす。その後舟は前

に進むことはなく横のまま進みました、川の
水には雨んぼが浮いていました。わたしはあ
まり雨んぼを見たことがないのですぐびり
くりしました。あと川の水はすぐくにびり
いて何が流れてくるのか知らず以分かりま
せんでした。5分位するととう着しました。
船頭さんが最後に声を張って、
「はい、い」
と言っていました。初めて木の舟に乘れて海
しかつたしおもしろかったです。

